



# 白聖

はくあ 第7号 令和3年10月20日発行



## 【進路行事について】

### 《1学年 職業ガイダンス 10月14日(木)》

各分野で活躍する職業人を招き、「仕事」が社会をどのように動かしているのか、そのためにはどのような資質・能力が求められるのかを知ることを目的としており、今年度は全ての会場においてオンライン講義で実施しました。【自己実現力】【課題発見力】【受信力・発信力】



## 令和3年度職業ガイダンス講義一覧

番号	系統	事業所名	概要
1	公務員	青森県職員	高校生の皆さんは、「公務員」と聞いてどんなイメージを抱きますか。実は、皆さんが将来どんな職業に就いても、公務員と関わりない職業はほとんどありません。そんな公務員の仕事の種類、やりがいなどを青森県庁のお話を中心にわかりやすく紹介します。
2	法律	青森地方検察庁	検事になるまでの流れ(法科大学院 司法試験 司法修習 二回試験 採用)、検事の仕事(捜査・公判を中心とする幅広い業務分野)等についてお話します。法律の知識を話し、より良い社会にしたいと考える人に関わっていただきたいと思います。
3	国際貢献	元国連職員	外務省専門調査員及び国連職員として海外で7年近く勤務した経験から、世界の平和と安全を守る仕事についてお話します。将来英語を活かして羽ばたくために高校生の時から何をすればいいか、具体的なヒントを皆さんにお伝えします！
4	金融	日本銀行	まず職業選択にあたって大切なポイントを整理したうえで講師自身がどのような考え、流れで日本銀行に入社したのかをお話します。その上で日本銀行や民間の金融機関の仕事について具体的なイメージがつかめるような形で紹介します。
5	ベンチャー	フォルテ	新型コロナウイルス感染症はこれまでの常識や価値観を一変させています。労働環境においてもテレワークやオンラインでのコミュニケーションが増え、働き方も大きく変化し、起業も大きな変革を迫られています。コロナ後の社会変化と期待されるイノベーション像を一緒に考えましょう。
6	商品開発	あおり監産業	加速度的に時代が変化するなか、職業の内容や就職についての考え方は企業及び個人についても大きく変わります。今回、地元青森県の企業が実施している「あおり監」の取り組みを参考に、これからの皆さんの職業選択について考える一助になればと思います。
7	製造業	オカムラ食品工業	当社は水産業界が長期的に抱える数々の問題を早期に「ニーズ」と捉え、原料調達から流通まで広範囲に着手し、国際的に展開することで企業として成長を遂げました。当社の過去の取り組みと展望の概要を皆様にご紹介させていただいて、事業開拓に必要な考え方について感じていただくと幸いです。
8	医療①	医療法人 内科おひさまクリニック	医療は科学技術だけでなく、人生観、哲学を理解しながら人の生死に直接関わる職業です。患者さんから教えてもらうことがたくさんあります。一つ一つの経験の積み重ねから、医療技術だけではなく自分の心も成長させてもらっています。医師卒業後の選択肢も多様で、やりがいのある職業です。
9	医療②	あおり協立病院	そもそも診療放射線技師とはどんな職業なのか。診療放射線技師になるための道のり、そして就職先、診療放射線技師に向いている人などを臨床画像や検査の様子を交えながら、技師歴30年オーバーの現役技師が紹介します。
10	報道	東奥日报社	インターネットの発達により、多くの人が手軽に文字情報や映像を得られる世の中になっています。そのような中、報道機関はどのような情報を「報じる」のか。日ごろ何を考えて「報じる」のか、情報を「伝える」と「報じる」との違いは何か。皆さんと考えたいと思います。
11	運輸	青い森鉄道	日本に鉄道が誕生して約150年、我々の「移動」は様変わりし、くらしや社会を大きく変えました。では現代において鉄道、とりわけ「地方の」鉄道会社は、どんな役割を果たしており、果たしていくべきなのでしょう。「働く」とは？「仕事」とは？といったことにも触れながら、私の拙い経験や所感なども交えつつ、お話できればと思います。

## 【大学受験について学ぼう】

### 《東北大学令和3年度入試における出題意図》

#### 【英語・志願者へのメッセージ】

本学の長文問題の最近の出題傾向は、分量は比較的多いものの、内容的には読みやすいものになっています。ただし、ある程度の抽象度のある長文ですから、英文の構造を正確に把握し、設問の要求に合わせて必要な情報を取り出し、これを適切な日本語として作文する能力が必要となります。そのため、一定量の英文をできるだけ多く、全体の内容をつかむという訓練と同時に、構文の理解や語彙力に支えられた正確な読解や、前後の文脈から語句の意味を類推する読解を行う訓練も必要です。

いわゆる四技能を重視する英語教育の結果、英語によるコミュニケーション能力は以前に比べて伸びてきているのかもしれませんが、しかし、外国語である英語で書かれた文章を正確に読み、自分の考えを正しい英語で論理的に表現するという点を疎かにすることはできません。今回の解答でも、与えられた英文を知っている語彙で無理に直訳したり、フィーリングで意味をつかんで訳したりしているものが散見されました。そういう解答の多くは、主語と述語の関係が崩れてしまい、日本語として不明瞭な解答となっていました。解答を終えたら最後に自分の書いた文が筋の通る日本語になっているか、自分の意図した意味を表した文になっているかを点検してほしいものです。英文の内容や問題のポイントをつかむことができても、答案を適切に作成するための日本語の表現力が十分でなければ得点につながりません。過不足なく答案を書くという技術は、たとえ母語であっても簡単ではありません。日頃の訓練がものをいいます。要は、母語であれ、外国語であれ、ことばを大切に読む方、書き方ができるかという点を十分に訓練してほしいと思います。

最後に、ことばによる表現においては、丁寧に書く、誤字脱字をしない（英語であればスペルミスをしない）など基本的な注意事項の他に、文法・論理・修辞という点も重要です。英語作文の場合は、修辞（レトリック）という点は受験生には要求されないにしても、文法的ミ



スをしないうことや（例えば、主語が三人称単数で現在時制の際は動詞に“s”をつけるといった初歩的な点）、論理的な展開にも注意してほしいと思います。そのためにも、英語以前の問題として、普段から日本語による表現をする際にも、こういった点を十分に注意してほしいと思います。また、採点者にとって非常に読みづらい文字で書かれた答案も少なくありませんでした。結果として受験生本人が損をする結果になりかねませんので、他者に見てもらって解答であるということにも注意してほしいと思います。



### 【化学・志願者へのメッセージ】

化学の入試問題は、高等学校で用いる教科書に準じた内容を問うことを基本としつつ、一見そこから逸脱しているように見える問題でも、問題文を注意深く読んで上でポイントを整理し、教科書で学んだ知識を前提として化学的な考え方が身に付いていれば、解答できるように作題されています。教科書の内容を理解すると言うとき、高校の化学の場合は往々にして知識の暗記になりがちです。これは、化学が、数学や物理と異なり、どちらかという、個々の物質についての分類学に近いという学問的性質によるものです。しかし、全ての化合物や化学反応を覚えることは勿論不可能です。したがって、化学を理解するということは、究極的には、個々の物質の限られた知識からその共通する化学的なものの考え方を体得することです。また、化学は、物理では扱えない、アボガドロ数を単位とする膨大な数の原子や分子の集団としての振る舞いに由来する物質の構造や性質を研究する学問です。そうした粒子が運動していることをイメージし、分子の形を立体的に想像できることも学習の一助になります。例えば、有機化学においては、各々の化学変換反応を覚える際、その共通する様々な官能基の構造と結合の極性そして反応性の関係を深く理解することが大切です。それによって、有機化合物の構造を推定するための総合的な思考力と解析力を身に付けることができます。また、理論化学や無機化学での計算問題では、今回も多く計算ミスが散見されましたが、そうした解答の中には、化学的なものの考え方に立って解の値を見直せば、当然おかしいと気づき、訂正することで得点につながることもできるでしょう。そして、自分の考えを正確に伝えられることも大切です。元素記号や化学式を判

別できるように正確に表記すること、適切な用語を選ぶことなどにも配慮してください。

さて、受験生の中には、将来大学で化学を専門に学びたい、研究したいと考えている人も多いと思います。大学での化学やより広い「科学」の研究では、与えられた情報を自分の知っている知識と関連付けていく、また、説明しようとする、そうした科学的なものの考え方がますます重要になってきます。このような取り組みによって、単に知識としての新しさではなく、真の意味で化学現象として新しい、独創的な研究が可能となるからです。そのためには、日頃から自然の摂理に目を向け、身の回りではどのような変化が起こっているのか、どのような反応によってできあがった材料なのか、どのような原理に基づいた現象なのか等に常に興味を持ち、考えたり調べたりすることが大切です。それによって、与えられた情報を様々な視点から解析したり、学んだ知識とどのように結び付けられるかを考察したりする能力が養われ、またそのような習慣を身に付けることができます。入試に役に立つというだけでなく、大学入学への準備として、皆さんには、是非、こうした習慣や知識を習得しておくことを期待します。

今回は英語と化学を取り上げました。いかがでしたか。さて、予測困難で不確実、複雑で曖昧な時代に向けて、私たちはこれから何をどのように学んでいけば良いのでしょうか。人類の長い歴史の中で、多くの哲学者や発明家、時代を牽引した人たちが繰り返し言ってきたことですが、古い思考だけの枠組みで考えても、新しい問題は解決できません。実はどんな時代でも、どんな人でも、無意識のうちに「これはこういうものだ」「これが常識だ」という思い込みや価値観を通して物事や世界を見えています。そのことをまずは自覚することが大切です。

とはいえ、ある価値観や認識の枠組みから全く自由になって認識したいと思っても、それは難しいものです。人は何らかの眼鏡をかけないと世界が見えてきません。だからこそ、前提的な枠組みや価値観を一度全てチェックし直し、何が大事なのか、何を優先するのかを見極め、解決・改善していくことが重要になってきます。

**これからの未来・社会を築いていくのはみなさんです。様々な知識を習得し、問題解決のために多くの知識を活用していこう！大切なのは学び続ける姿勢です。**

